

この説明文書は、お薬とともに保管し、服用の際には、必ずお読みください。

【漢方薬】

ホノミサンイン[®]錠

第2類医薬品

252錠

△ 使用上の注意

❌ してはいけないこと (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる)

1. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください。他の瀉下薬(下剤)
2. 授乳中の方は本剤を服用しないが、本剤を服用する場合は授乳を避けてください。



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。(1)医師の治療を受けている人 (2)妊婦又は妊娠していると思われる人 (3)体の虚弱な人(体力の衰えている人、体の弱い人) (4)胃腸が弱く下痢しやすい人 (5)発汗傾向の著しい人 (6)高齢者 (7)今までに薬などにより発疹・発赤、かゆみ等を起こしたことがある人 (8)次の症状のある人: むくみ、排尿困難 (9)次の診断を受けた人: 高血圧、心臓病、腎臓病、甲状腺機能障害
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますが、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気、嘔吐、食欲不振、胃部不快感、腹部膨満、はげしい腹痛を伴う下痢、腰痛
精神神経系	めまい
その他	発汗、動悸、むくみ、頭痛

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
偽アルドステロン症、ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腸間膜静脈硬化症	長期服用により、腹痛、下痢、便秘、腹部膨満等が繰り返しあらわれる。

3. 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。下痢、便秘
4. 1ヵ月位(便秘に服用する場合には1週間位)服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
5. 長期連用する場合には、医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

【用法・用量】 次の量を食前又は食間に、コップ半分以上のぬるま湯にて服用してください。

年 齢	1 回量	1 日服用回数
成人(15歳以上)	6 錠	3 回
15歳未満 7歳以上	4 錠	
7歳未満 5歳以上	3 錠	
5歳未満	服用しないでください	

<用法・用量に関連する注意>

- (1)用法・用量を厳守してください。
- (2)小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。

【成分・分量】 18錠(3.6g)中
(オウゴン1.0g・カッセキ1.5g・カンゾウ1.0g・キキョウ1.0g・ケイガイ0.60g・サンシジ0.60g・シャクヤク0.60g・ショウキョウ0.20g・セッコウ1.0g・センキョウ0.60g・ダイオウ0.75g・トウキ0.60g・ハッカ0.60g・ビャクジュツ1.0g・ポウショウ0.75g・ポウフウ0.60g・マオウ0.60g・レンギョウ0.60g) 防風通聖散エキス(1/2量)2.0g
添加物としてカルメロースカルシウム、軽質無水ケイ酸、結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、トウモロコシデンプン、乳糖を含有します。
本剤は天然の生薬を原料としていますので、多少色調の異なることがありますが、効果に変わりはありません。

【保管及び取扱い上の注意】

- (1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に、チャックをしっかりと閉めて保管してください。
- (2)小児の手の届かない所に保管してください。
- (3)他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4)袋の中に乾燥剤を入れてあります。誤って服用しないよう注意してください。
- (5)使用期限内であっても、開封後はなるべく早く服用してください。

【発売元】 株式会社MORI PHARMACY
東京都豊島区北大塚3-25-16伊納ビル2F
問合せ先: 090-7519-2946(平日10時~19時)

【製造販売元】 劑盛堂薬品株式会社
和歌山市太田二丁目8番31号

副作用被害救済制度 ☎0120-149-931

【効能・効果】 体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症: 高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症(副鼻腔炎)、湿疹・皮膚炎、ふきでもの(にきび)、肥満症